



(大阪西南部)

大阪・堺環濠都市遺跡

- 1 所在地 大阪府堺市大町西一丁
- 2 調査期間 一九九〇年(平2)九月～十二月
- 3 発掘機関 堺市教育委員会
- 4 調査担当者 増田達彦
- 5 遺跡の種類 都市遺跡
- 6 遺跡の年代 一四世紀～一八世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中世の堺は、会合衆によって行政を指導される自治都市として、また日明貿易により栄えた港湾都市として日本史上に重要な位置をしめる。遺跡は、堺市の北西部に位置し、江戸時代にめぐらされた堀によって囲まれ、旧市域の中心部にあ

たる。規模は東西一・一km、南北三kmで、標高はO・P・高)で五～七mの馬の背状の堺砂堆と呼ばれる土地に

立地する。

今回の調査は事務所ビル建設に伴うもので、調査地点は遺跡を南北に貫く大道(紀州街道)筋ぞいで、本遺跡中心部に近いところである。遺構面は一五世紀後半から一七世紀初のものまで、計七面を検出しており、主な遺構としては、礎石及び埦列建物六棟の他、土坑、井戸、排水口、便所用と考えられる埋甕など、多数が検出されている。

木簡が出土したのは、一六世紀前半代に比定される第三次面で、道路(幅三・四m)の側溝脇に位置する土坑SK三〇一(南北一・八m、東西一・五m、深さ〇・七m)である。ほぼ方形で、道路側である西側及び北側の壁面に板材を貼り、杭を打って留めており、南側にもその痕跡がある。埋土は単一の暗褐色の粘質土であり、底に近い部分ではヘドロ状になっていた。この状況からみて、滯水したとも考えられるが、貯水施設というより、本地点での良好な浸水性を考慮すれば、排水施設としてとらえた方がよいと考えている。

木簡はこの北側の土留板の内側より出土したもので、この板囲いの土坑の設置時期に混入したと考えられる。また共伴遺物としては、土坑の埋土内から出土した土師質皿、瓦質皿、羽釜型の瓦質香炉等がある。

8 木簡の积文・内容

(1) ・「小麦二斗

○。三月寅五日

」・「○にしかつちや」□」

112×30×11 011

木簡は上部に穿孔を施している。記載された内容は、堺環濠都市遺跡及びこの調査地点の性格を考える上で興味深いが、その考察は後に委ねたい。

(増田達彦)

